

## 2 社会的な課題を多面的・多角的にとらえ、考察することができる教材・内容

生徒が、現代や過去の社会的事象について、資料を的確に活用しながら多面的・多角的に考察することができ、情報を批判的に読み解いて公正に判断する力を養えます。

### 地理的分野とSDGs (持続可能な開発目標)

世界地誌の学習 (p.47-128) では、章の導入ページで、州ごとの主題とともに、SDGs (持続可能な開発目標) の17の目標と関連する特徴的な地球課題を扱うことを示しています。例えば、北アメリカ州の学習では、導入ページ (p.92-93) で「北アメリカで学習する地球課題」として、「多民族の共存の問題」を取り上げ、該当ページ (p.100, 102-103) を示して導き、SDGsも意識しながら学習がより深まるように工夫しています。

**地球課題とSDGs**

あなたは、SDGsを知っていますか。SDGsとは、2015年に国連で採択された、2030年までに国連加盟国が達成するために掲げた目標のことです(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)。人間、地球そして繁栄のための行動計画として、次に示した17の目標などで構成されています。

あなたは、SDGsを知っていますか。SDGsとは、2015年に国連で採択された、2030年までに国連加盟国が達成するために掲げた目標のことです(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)。人間、地球そして繁栄のための行動計画として、次に示した17の目標などで構成されています。

また、地理的分野では、「第2編 世界のさまざまな地域」の「第2章 世界の諸地域」において、六つの各州で地球課題を取り上げます。取り上げられた地球課題が、SDGsに示された17の目標の中の何と関係するか、考えていきましょう。

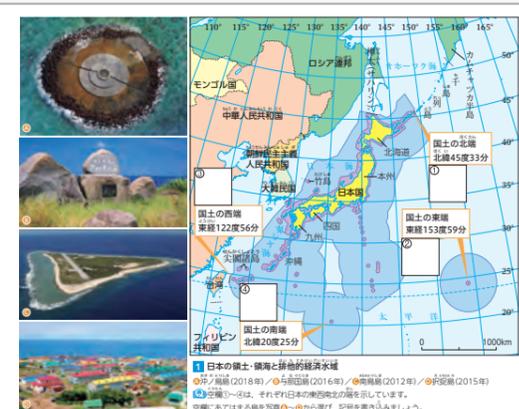
◀ p.IV

### 〈地球課題・ラインナップ〉

- ◇人口問題(アジア州) p.54-55
- ◇環境問題(ヨーロッパ州) p.76-77
- ◇人口・食料問題(アフリカ州) p.87-89
- ◇多民族の共存の問題 (北アメリカ州) p.100,102-103
- ◇環境・都市問題(南アメリカ州) p.111-115
- ◇多民族の共存の問題 (オセアニア州) p.121,123-125

### 領域をめぐる問題

見開き4ページを配当し、日本の領域に関する基礎的な学習から、北方領土、竹島、尖閣諸島といった日本の領土をめぐる対立や現状についてしっかりと学べるように、多彩な資料と丁寧な記述で理解を深めます。



**日本の国土の広がりから**

日本の領域の特徴をとらえ、領土・領海・領空の区分など、基礎的な知識をコンパクトに学習します。【p.22】

**2 日本の国土の広がり** ▶日本の領域はどこまで

学習課題 2 日本の領域にはどのような特色があるでしょうか。

島国日本 日本の国土は、ユーラシア大陸と太平洋の間に広がっています。北海道、本州、四国、九州の形状に基く大きな島々と、その周辺の6800あまりの小さな島々によって成り立っています。北海道から沖縄県までの距離はおよそ3000kmで、国土面積は約38万km<sup>2</sup>です。

日本の国土の特徴として、山が多く平野が少ないことがあげられます。日本列島の中央部には3000m級の高い山々が連なり、南北に細長くのびた国土の自然は変化に富んでいます。ユーラシア大陸とは近い距離にあるため、古くから活発な交流が行われて

### 日本の国境をめぐるさまざまな動きを学習します

北方領土、竹島、尖閣諸島については、これまでの動きや現状について豊富な写真資料とともに記述しています。地図についても位置関係がとらえやすいように、日本海を中心に描いたものを掲載しました。【p.25】

1 商業を上げて、日本海周辺を結んだ地帯 地図上で、北海道、本州、四国、九州の形状に基く大きな島々と、その周辺の6800あまりの小さな島々によって成り立っています。北海道から沖縄県までの距離はおよそ3000kmで、国土面積は約38万km<sup>2</sup>です。

2 国境が拡大した島嶼 (2011年撮影) 海嶺の山脈によって、大きく形を拡大する火山帯です。1970年代にも活発な噴火活動がみられました。

3 竹島と尖閣諸島 島を行って来ました。1905年に政府は、竹島を国際法に基づき島根県に編入し、日本固有の領土としました。1952年以降、韓国が竹島を自国の領土として主張し、現在まで不法に占拠し続けています。日本はこれに抗議を重ねるとともに、国際社会の場での話し合いを提案していますが、韓国は受け入れていません。

4 尖閣諸島 1895年に群島に編入された日本固有の領土です。第二次世界大戦後には、アメリカ合衆国の施政の下に置かれていましたが、1971年に沖縄返還協定が結ばれ、翌年日本に復帰しました。尖閣諸島は、アメリカ合衆国の施政の下にあった期間を除いて日本が領有し、有効に支配を続けてきました。しかし、1970年代から、周辺海域に埋蔵されているとされる資源をめぐる、中国が領有を主張し始めました。近年、中国船が尖閣諸島周辺の日本の領海や接続水域にたびたび侵入する事態が生じ、

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

**4 北アメリカ州** 学習 北アメリカでは、なぜ先導的で多様な産業が発達したのだろうか。

1 カナダ領から北緯45度の緯線(北緯45度線) 北緯45度線は、北緯45度線と南緯45度線の間を結ぶ緯線です。北緯45度線は、北緯45度線と南緯45度線の間を結ぶ緯線です。北緯45度線は、北緯45度線と南緯45度線の間を結ぶ緯線です。

2 アラバマ州の都市 アラバマ州の都市は、アラバマ州の都市です。アラバマ州の都市は、アラバマ州の都市です。アラバマ州の都市は、アラバマ州の都市です。

3 ニューヨーク、マンハッタン島の夜景(アメリカ合衆国) ニューヨーク、マンハッタン島の夜景は、ニューヨーク、マンハッタン島の夜景です。ニューヨーク、マンハッタン島の夜景は、ニューヨーク、マンハッタン島の夜景です。

4 多民族の共存の問題 アメリカ合衆国とカナダは、これまで世界から移民を受け入れ、多様な民族からなる社会をつくり上げてきました。民族や文化の多様性は、独自の新しい文化を生み出すとともに、社会や経済に活力を与えます。一方で、国連加盟国以来、これにともなう問題も抱えています。ほかの国でも、差別や格差、少数派の人々の地位の向上など、多民族が共存するために解消しなければならない問題を抱えています。

▲ p.92-93

**北アメリカで学習する地球課題** ●多民族の共存の問題

アメリカ合衆国とカナダは、これまで世界から移民を受け入れ、多様な民族からなる社会をつくり上げてきました。民族や文化の多様性は、独自の新しい文化を生み出すとともに、社会や経済に活力を与えます。一方で、国連加盟国以来、これにともなう問題も抱えています。ほかの国でも、差別や格差、少数派の人々の地位の向上など、多民族が共存するために解消しなければならない問題を抱えています。

p.100,102-103

**EU統合の課題** — 多様性をどう考えるのか

EUは、市場や通貨の統合を進め、現在28か国が加盟しています(2018年)。一方、統合するという目標の中で、労働自由を目的とする国内の動き、大規模な移民の流入により、各国で考え方の違いも出てきています。統合することの難しさを考えてみましょう。

一つになることと難しさ ユーロ圏は、経済だけでなく外交や防衛などにも広がり、国家をこえた結びつきを強めています。しかし、加盟国が増えるに従ってさまざまな問題が明らかになってきました。

スペイン・カタルーニャ州独立運動 スペイン北部、フランスと国境を接する場所にカタルーニャ州があります。カタルーニャ州の中心地バルセロナは世界有数の観光地であるバルセロナを擁する都市です。また、オリンピックが開催された1992年以降は外国企業も度々移住して発展し、スペインを代表する豊かな都市になりました。

豊かな州でありながら、なぜ独立運動が盛んになったのでしょうか。スペインという一つの国家には、地域ごとに異なる文化や言語を話している人々が生きています。例えば、カタルーニャにはスペイン語を話さない人々もいます。独自の言語であるカタルーニャ語を話している人々もいます。経済が落ちたことで、カタルーニャ州の税収が他の地域

に比べて、自分たちには使われないことへの不満が広がりました。カタルーニャ人は「それなら『それなら』という気持ちでカタルーニャ州に、投票の結果、独立宣言をしたカタルーニャ州に、憲法に違反しており無効であるとする政府との決断に深く苦しんでいました。また、独立しても経済に発展することは難しいと心配する声も聞かれます。

ヨーロッパを揺るがす移民や難民の流入 第二次世界大戦後、経済発展した国では労働者不足を補うために海外からの労働者を呼び寄せました。「移動の自由」が認められている現在ではさらにその数を増やしています。また、内戦が続くシリアを中心にイスラム圏からの難民が大量に命をかけてヨーロッパにやってきました。ドイツをはじめヨーロッパ各国は、人道的な観点から難民受け入れに積極的な姿勢を示しました。しかし、同じEU加盟国であっても移民や難民に対する考え方に違いがあります。例えば、治安に対する不安に注目が集まっています。さらに、外国人の文化を認めながら一緒に生活するのが、自分の国の文化に合わせた生活させるのか、EU加盟国による政策の違いも課題となっています。

カタルーニャ州が独立した場合、良くなることと悪くなることを予想しよう。

「EU統合の課題—多様性をどう考えるのか」【p.80】

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

関連 歴史 [現代] 現在に残された課題 / 公民 [国際社会] 国家と領土

### 多面的・多角的な視点からとらえる

例えば「ヨーロッパ州(p.66-81)」では、EUを中心に「国々の結びつき」を扱いますが、一方でイギリスのようなEU離脱 (p.71「地理の窓」) などの動きや一国内に見られる独立運動 (p.80特設ページ) などにも触れました。物事を一面的にとらえるのではなく、情報を批判的に読み解き、多面的・多角的に考察する力が身につくように、各所で工夫を凝らしています。